



# パースならではの“門出”体験

その1

P11～14で紹介した、パースならではの“門出”提案をもとに1日のスケジュールを立て、実際に本誌読者モデルの2名に体験してもらいました。一人目は、直井俊さんです。

今回協力して頂いた読者モデル

ナオイシュン  
直井 俊さん 29歳



18歳のときに、ワーキングホリデーでカナダへ渡り、1年間の海外生活を体験した。その後、日本で就職するも、もう一度海外で生活をしたいという思いが湧き、オーストラリアに来ることを決めた。カナダや日本での仕事の経験を活かし、現在は、カフェの厨房スタッフとして働いている。

## 1日のスケジュール

- 6:00 am 朝起きたら朝日を浴びる (P11 2 参照)
- 7:00 am 朝の運動を取り入れる (P12 7 参照)
- 10:00 am 自然と触れ合う (P12 5 参照)
- 2:00 pm 感謝の気持ちを手紙やプレゼントで伝える (P14 14 参照)
- 4:00 pm 資格を取得する (P13 10 参照)
- 6:00 pm スケジュール帳を活用する (P13 11 参照)
- 8:00 pm 英語の勉強をする (P11 3 参照)
- 10:00 pm 就寝

6:00 am



### 朝起きたら朝日を浴びる

(P11 2 参照)

普段から仕事との関係で朝が早い直井さんですが、「朝日を浴びてから1日が始まるというのはとても素晴らしいことだと思います。家屋構造や生活環境の関係で日本での暮らしでは簡単にできることではないですね」と、オーストラリアならではの良さを実感していました。

7:00 am



### 朝の運動を取り入れる (P12 7 参照)

「普段からジムに通っているのですが、朝から外でランニングというのはスッキリして、とても気持ちが良かったです」とパースの自然の豊かさを喜ぶ直井さん。また、朝早くに運動することで、その後の1日が有効に使えた、とのことでした。

10:00 am



### 自然と触れ合う (P12 5 参照)

シェア・ハウスのすぐ裏にスワン川が流れていたのので、釣りをするチャンスだと考えた直井さん。「知識も情報も何もない状態でのチャレンジだったので、残念ながら釣れませんでした(笑)、「自然の中で釣りをしている」ということ自体が、何か自分を楽しい気分になさしてくれました」と語ってくれました。

2:00 pm



### 感謝の気持ちを手紙やプレゼントで伝える

(P14 14 参照)

何か特別な機会でもない限り、家族にプレゼントを送るなんてことは滅多にないと言う直井さん。「今度は甥や姪にプレゼントを送るうかと考えていたので丁度良かったです。親には、旅先で絵はがきなどを送ることがあります。その土地に居るからこそ手に入れられる贈り物は素敵ですよね」と、贈り物を真剣に選んでいました。

4:00 pm



### 資格を取得する (P13 10 参照)

「仕事のために、そして直接将来の自分の糧となる資格を取得することは、自分にとって大きな助けになると思います」と直井さん。将来については、海外で生活してきた経験を活かし、2020年の東京オリンピックで何か特別な仕事をしたい、という目標があるそうです。

8:00 pm



### 英語の勉強をする (P11 3 参照)

机に向かい、英語の勉強をする直井さん。普段の生活の中で、英語力の問題で悔しい思いをすることも少なくないとのこと。「言い返したいことがあっても、話すことができないなら、どうしたって泣き寝入りしなければいけません。そういうときは、もっと英語の勉強をしなくちゃいけないと感じます」と勉強の必要性を日々感じているそうです。

6:00 pm



### スケジュール帳を活用する (P13 11 参照)

「オーストラリアで仕事をしている中で感じることは、決めた時間内に作業を終えるということです」と、オーストラリアの仕事についての感想を口にした直井さん。日本との違いについて、「閉店の時間には店を閉め、帰るべき時間には帰ります。全員がその時間に仕事を終わられるように作業をしている、という点が日本とは違いますよね」と話してくれました。

## パースならではの“門出”体験をしてみて、いかがでしたか？

「企画を通して改めて、ここでの生活は理想の形の一つだと感じました。朝早くに起きれば1日の活動時間が長くなるので、充実した1日を過ごすことができます。また、パースの自然の中で運動をしたりすることも、日本の都会出身ではない僕にとって、とても合っていました。日豪の文化の違いを考えることで、オーストラリアで暮らしながら何気ない日本の良さにも気付きました」

